令和８年度小平市立小平第九小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

１　調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

２　調査内容

（１）教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

調査全体の平均正答率は、全国平均を 2.1 ポイント上回った。特に「言葉の特徴や使い方」に関する事項では全国平均を大きく上回っている。書くことについては全国平均を１ポイント、読むことについては、６ポイント下回っている。

課題

読むことの最後の問題では、無回答率が 26.3%であり、４人に１人以上が白紙のまま提出していることが分かった。時間内に終わらせる力、文章を読み取る力、自分の考えを表現する力を育む指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

記述問題に対する意欲を高めていくために、書く単元や読む単元で「書き出しの型」や「段落ごとの構成メモ」を事前に準備し、段階的に書かせる指導を取り入れていく。また、書き進め方について、参考となる資料を ICT で提示し、文章の組み立て方や内容理解の力を高める。

週１回の朝読書の時間で読み聞かせを行い、聞いた話を要約する練習を月に１度取り組んでいく。

【算数】

状況の分析

調査全体の平均正答率は、全国平均を 0.6 ポイントとやや上回っている。数の計算のうち、小数の減算や比較は全国平均より 7.7 ポイント高く、定着が見られる。変化と関係、データの活用は全国平均を 0.7～3 ポイント下回っている。

課題

理由や根拠を数や言葉で説明する記述力、単位量あたりの大きさと「式の意味」の理解度が低いことが分かった。無回答率が低いことから諦めずに解こうとする姿勢をもっているので、ICT を活用し、思考力を育む指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

計算の結果だけでなく、「どのような根拠でその判断をしたのか」「通分した数や分子の比較」を言葉や式で説明する活動を単元ごとに取り入れる。また、単位量あたりの大きさでは、式を立てる際に「１あたり量」「全体量」が何を表しているかを図や数直線を活用して言葉と結び付けて確認をする場面を増やしていく。数直線を正しく書けるようにするために、ＩＣＴを活用して色分けをするなど、児童が視覚的に理解できるようにしていく。

【質問紙】　　状況の分析

「自分には、よいところがあるか」「将来の夢や目標があるか」「人の役に立つ人間になりたいか」「先生は良いところを認めてくれるか」では肯定的回答が全国平均を上回っており、自己肯定感や自己有用感が高い。「学び方を考え、工夫できているか」でも、肯定的回答が全国平均より 16 ポイント高く、主体性がある。

課題

「困り事や不安がある時に相談できるか」は、全国平均よりやや低く、大人が「良いところを認めてくれる」「学校が楽しい」の肯定的回答が多い反面、大人へ助けを求めることにはためらいを感じる児童がいることが分かった。また、「１日あたりのＳＮＳ利用時間」では、１時間以上と回答している児童が半数以上おり、情報モラル教育の継続的な指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

「SOS の出し方」に関して指導・相談体制を充実させていく。「心配をかけたくない」「自分から言いづらい」と感じる児童への配慮として、定期的なアンケートや具体的な相談手段（スクールカウンセラーや SOS カードの活用）の周知を進める。また、教師からの毎日の言葉がけで、信頼関係を築き、相談しやすい環境を整えていく。

インターネットの利用に関して、朝の時間を活用した情報モラル教育を月１回行う。また、保護者会、学校だより、学級通信等を通して「家庭での会話の時間」「インターネット利用のルールづくり」について啓発・共有を行っていく。